

乗馬ライフ

10 2013
vol.237

ARENA SPECIAL

全日本ジュニア障害 & 全日本ジュニア馬場

第37回
全日本ジュニア
障害馬術大会
2013

第30回
全日本ジュニア
馬場馬術大会
2013



新連載スタート

How to Ride
福島大輔の障害馬術編

「本誌の「大輔」の内容まで読了アーマー第150回12月号
地方馬術の新連載がスタート！」

- 総合馬術を始めよう
- 国際馬術ジャーナリスト大久保直子さんが、
世界と日本の馬の現在—馬鏡

How to Ride
田中重文のエンシェランス編
尾花野純のウエスタン編



ヤングライダー選手権



優勝決定戦ジャンプオフで飛越する高橋&ヤマト。



オリジナルコースのヒマワリ障害を飛越。この障害を含めヒマワリ柄の障害に引かかる人馬は多かった。

冒頭でも触れたように2013年の全日本ジュニアから出場するための権利獲得条件が厳しくなっている。例年であれば公認競技会での完走以上がクオリファイの条件だったが、今大会から減点4以内での完走が条件となる。今年の出場数は、ヤングライダー45人馬、ジュニアライダー51人馬、チルドレンライダー83人馬、合計

179人馬である。2012年が64人馬、68人馬、127人馬のエントリーがあったことを考えると約3分の2に減少しているのだ。結果として例年よりもハイレベルかつエキサイティングな勝負となった。

まずはヤングライダー(2013年12月31日現在16歳以上22歳以下)クラスの選手権競技(8月4日)から紹介する。初日(8月



待機馬場にて。ジャンプオフ開始を待つ高橋。

2日)の標準競技、2日目(8月3日)のスピード&ハンディネス競技の順位点の合計の少ない上位60%が選手権競技の出場権を得る。1組棄権したためヤングライダー選手権競技には25人馬が出場。まずは3番目に登場した陶器幸一&カラカルLS(日本大学)が減点0でフィニッシュ。9番目の江田しおり&スピロウ(乗馬クラブリバーサイドステーブル浜北)がクリアラウンドしジャンプオフ成立。続いて10番目の中村幸喜&ルーナ(乗馬クラブルヴァード花畑)、16番目の赤塚祐太&アッパーアップル(座間近代乗馬クラブ)、23番目の高橋優美&ヤマト(立教大学)、25番目の山田晃嗣&カルビノZ(関西大学)もクリアラウンド。ジャンプオフへは上記の6人馬が進む。

ジャンプオフ1番手は陶器&カラカルLS。素晴らしい走りを見せた陶器はクリアラウンド。38秒09という速いタイムで後に続く選手たちに対して大きなアドバンテージを得る。コース的には急回転しながら攻める3段オクサーがポイントになる。ジャンプオフ2番手の江田&スピロウは果敢に攻めるも落馬。続く中村&ルーナは2落の減点8、赤塚&アッパーアップルは1落の減点4。ジャンプオフ5番目に登場したのが高橋&ヤマト。一見するとゆったりとした飛越だったが、驚くべきことに陶器のタイムよりも4秒近くも縮めて34秒14でクリアラウンド。暫定トップとなる。残すは最終出走の山田&カルビノZ。攻めの走りを見せた山田だったが例の3段オクサーでバランスを崩してしまい1落下。減点4。この結果、高橋優美&ヤマトのコンビがヤングライダー選手権優勝を決めた。2位は陶器&カラカルLS、3位は赤塚&アッパーアップル。高



ヤングライダー準優勝は陶器幸一&カラカルLS(日本大学)。

橋は今回でヤングライダークラス5度目の出場。これまでは叔父の広田龍馬氏が経営する那須トレーニングファームのやっくでの騎乗が中心だったが、今年と同じく那須トレのヤマトに騎乗した。しかし特にここ数か月間は学業に忙しくほとんど馬自体に乗る機会も無かったそうだ。もちろんヤマトに乗ったのも久々。「勉強ばかりで馬に乗れていませんでしたが、ヤマトというスーパーホースに乗せてもらって良い成績をとりたいたいという思いはありました。ひたすらヤマトを信じて邪魔をしない走行を心がけました。何でもやってくれるスーパーホースですね。ヤマトが1位って感じでした。最初に乗ったのは高校生の頃でしたが、乗せてもらうたびにヤマトから教えてもらうことがたくさんあります」と語ってくれた。また広田氏は「最高です。ヤマトに巡り合えて良かった!優美も寸前に1、2回乗っただけだったんですが素晴らしい騎乗でした。馬乗りとして天才だった(私の)姉の遺伝ですね。本当に嬉しいです」とコメント。なお今号の連載「広田龍馬のざっく馬らん」(48ページ)には大会の裏話などを掲載している。



3位赤塚祐太&アッパーアップル(座間近代乗馬クラブ)。



4位山田晃嗣&カルビノZ(関西大学)。



5位中村幸喜&ルーナ(乗馬クラブルヴァード花畑)。



6位江田しおり&スピロウ(乗馬クラブリバーサイドステーブル浜北)。



7位翠悠介&ヴァレンティノ(犬山乗馬クラブ)。



8位山口新&ヴェルヴェットガール(カナディアンキャンプ乗馬クラブ)。

ヤングライダー障害飛越選手権

順位	選手	馬匹	所属	減点	JOタイム	JO減点0	備考
1位	高橋優美	ヤマト	立教大学	0	34'14	0	
2位	陶器幸一	カラカルLS	日本大学	0	38'09	0	
3位	赤塚祐太	アッパーアップル	座間近代乗馬クラブ	0	41'23	4	
4位	山田晃嗣	カルビノZ	関西大学	0	42'16	4	
5位	中村幸喜	ルーナ	乗馬クラブルヴァード花畑	0	40'07	8	
6位	江田しおり	スピロウ	乗馬クラブリバーサイドステーブル浜北落馬	0	E	—	落馬
7位	翠悠介	ヴァレンティノ	犬山乗馬クラブ1	1	—	—	
8位	山口新	ヴェルヴェットガール	カナディアンキャンプ乗馬クラブ	2	—	—	
9位	上野薫	月の王者	筑波スカイラインステーブル	4	—	—	
10位	大西徹平	コンタンゴ	神戸乗馬倶楽部	4	—	—	

ヤングライダー選手権



ヤングライダー選手権優勝
高田茉莉亜&リカルド
(アイリッシュアラン乗馬学校)

昨年2度目のヤングライダー出場は、正直ボロボロでした。それまでの自分はすべて馬任せだったことに気がきました。馬が疲れていてもフォローできず、選手として精神的にもグダグダでした。自分のミスで点を落としていた……。それがとても悔しくて、この一年は「絶対勝つ!」と心に近い、練習を積んで来ました。今回優勝できたのは、リカルドとフィーリングが合ってきたからだと思います。今後の目標は、セントジョージにも出場し、ジュニアの世界だけでなく、大人の世界でもまずはクオリファイするところから頑張っていきたいです。そしてもちろん、来年のヤングライダー選手権でも優勝したいですね!



ヤングライダー選手権優勝
高田茉莉亜&リカルド (アイリッシュアラン乗馬学校)

治大学)、後藤寛佳&ボンジョヴィ(早稲田大学)、桑原歩&明桑(明治大学)、神林夏美&桜賢(日本大学)が進んだ。

続いてチルドレンとジュニアがスタート。ジュニアは30人馬がエントリー。昨年より人数が増えた。1位は昨年の覇者、清水晶子&ガブリエル8(藤沢乗馬クラブ)だ。昨年よりも予選のスコアを上げ、好スタートを切る。本選へは、山崎優希&バルデュードラゴン(町田乗馬センター)、平野羽衣音&P(ウィルスタッド)、高橋萌和子&レグルスリファインド(ドレッサー・ステープル・テルイ)、岡部綾沙規&リビエロ(ESJ)、安部紗子&ライドロザリー(アイリッシュアラン乗馬学校)、萩原健太郎&サルボ(東京都立農芸高等学校)、菅井友香&ヴォルフラム(エヌエスジーライディングディビジョン)、黒崎那奈&ワイオーナ(アイリッシュアラン乗馬学校)、牧野はな&明菱(明治大学)が進む。

毎年エントリー数の最も多いチルドレンには43人馬がエントリー。1位通過はヤングトップ通過の高田と同じ、アイリッシュアラン乗馬学校所属・小森薫子&ドリームガール。67.318%の高得点で予選を通過する。小森は昨年11位で予選通過、この一年間の成長が楽しい選手だ。本選へは神村ひより&リンドバーク(アイリッシュアラン乗馬学校)、荒井花純&アンパイア(つ



柿澤小夜子&桜健(日本大学)



小林彩乃&モネ(ウィル・スタッド)



坂井優美&ハーモニア(エヌエスジーライディングディビジョン) 香田彬彦&明菱(明治大学)



ジュニアライダー選手権



ジュニアライダー選手権 優勝
清水晶子&ガブリエル8 (藤沢乗馬クラブ)



ジュニアライダー選手権優勝
清水晶子&ガブリエル8
(藤沢乗馬クラブ)

昨年は選手権で優勝できましたが、キュアで3位だったことがとても悔しかった。今年は予選も決勝もベスト(1位)で優勝できたので、とても嬉しかったです。この一年、ガブリエル8とのコンビネーションは進歩しました。経路を回る上で全体のポイントを意識し、ちょっとしたところを考えながら回れるように踏めるようになったところです。来年からはヤングライダーに出場するので、経路も変わり新たな運動も加わります。初心に戻って頑張っていきたいです。近い目標は、8月末のブロック大会で良い成績を残したいですね。これからもガブリエル8と一緒にいけるところまで頑張っていきたいです。

ま恋乗馬倶楽部)、吉田友里恵&リースリング(アジェンダ乗馬学校)、福岡珠緒&ザテック(リトルホースクラブ)、小池良輔&ランドレノム(駒立乗馬クラブ)、下愛理彩&エーデル・シュタイン(ドレッサー・ステープル・テルイ)、鶴田恵美里&シュープリーム(狭山乗馬センター)、井上勇一&フィルティア(岡山乗馬倶楽部)、大森風沙&ファビオ(ESJ)、重藤エディット彬&タイムテイラー(藤沢乗馬クラブ)、高橋宏美&グランパM(伊香保バーデンファーム)、加藤亜美&ラズベリー(ヴェルデファーム)、松戸一生&ラ・コアフェール(四街道グリーンヒル乗馬クラブ)、服部ちえ&パリーチェロ(ドレッサー・ステープル・テルイ)が進出。

翌15日、まずはチルドレンとジュニアの本選が行われた。チルドレンでは9番目に出場した下&エーデル・シュタインがスコア61.666%で2位に浮上、選手権の最終順位に期待が持たれる結果に。予選1位通過の小森は本選も美しい騎乗を見せ、両競技共にトップ。念願の優勝を果たした。選手権の結果は優勝、小森&ドリームガール、2位荒井&アンパイア、3位は本選で頑張った下&エーデル・シュタインが入賞した。

屋内馬場で行われるジュニアの本選は自由演技(キュア)で競われる。構成、



安部紗子&ライドロザリー(アイリッシュアラン乗馬学校)



平野羽衣音&P(ウィルスタッド)



高橋萌和子&レグルスリファインド(ドレッサー・ステープル・テルイ)



山崎優希&バルデュードラゴン(町田乗馬センター)